

ハワイイの土俗に就きて

(承前)

文學博士 藤 岡 勝 二

つまり種々の人種が此處に入込んで來たうち、日本人が甚だ多くなつて、それが問題になつて居る譯であります。この人種の入り込んだ歴史の概略を見ますと、この諸島の中へ砂糖栽培地が出來ました。どうしても土人ではあの仕事が多分出來ないといふことを最初發見した。それが抑々弱點の本なのであります。土人を使ひまして糖業のことを色々やらせて見ましたけれども、一向能率が擧らない、第一だらしがなくていけない、そこで、是はごうも外國の人を入れるより仕方がないといふことになつたのであります。それが丁度十九世紀の中頃から始つたことでありまして千八百五十二年に支那人が百八十人這入つたのが他國勞働者の這入つた初めであります。是は恐しい廉い手間で這へりましたので、五年契約で一箇月三弗の賃銀でありました。無論衣食住は與へる。病氣になれば醫藥は與へるといふのであります。一箇月三弗といふのは随分廉い手間であります。是が百八十人這入りまして次で支那人が百人來た、斯うして段々支那人が増して參りまして、遂にはもう制限無しに來る者を迎へて居つた所が

二萬人を越えた時に驚いたのであります。二萬を越えた時にホノル、の政府の人は驚いて糖業者と相談をして、そんなに無暗に支那人が這入つて來ては餘程考へ物である。殊に支那人は賭博をして仕様がな——賭博といふことは支那労働者の特徴であるやうであります。實は甘蔗を栽培して居ります所、竝に甘蔗を絞つて居る製糖業の所などを見て參りまして、日本人の住んで居る小屋、支那人の住んで居る小屋各々人種の異なる小屋を見て參りましたが、支那人の小屋に這入ると賭博臺といふものが附いて居ります。他の人種にはさういふものはありませぬが、支那人の食堂の隅の所には前臺があります。案内者には何であるかといふと、是は説明しないといひましたが、教育大會で支那から來た人も連れ立つて居りましたから其人に是は何ですといふと、いふまでもなく博打臺ですと、いはれたので私もやつと知つたのであります。が、どうも是は捨てられないものと見えます。——是が爲に十分事業が擧らな一つであるとして支那人排斥が起つたらしいのであります。(序でに申しますが、各人種の小屋を見て廻りました時に、私が感じましたのは支那人は同じ寄宿舎生活をして居りまして一人々々窠を別にするといふことをして居りませず、一つの大きな共同の臺所を有つて其處で食事を拵へさせて、さうして皆に分けて喰ふといふ仕組になつて居りますが、日本人はさうでない。必ずもうごんな小さいのでも自分のところは自分のところだけの窠を拵へるといふことが特徴になつて居ります。是等が餘程違ふ所であると私は感じました。是は民族的に違ふものではないかと、其善惡は別問題として感じました。) 斯

の如くして早く支那人は這入りましたが、それで支那人の数が二萬に達してから、くひ止められてしまひまして、後に(まだこの全群島が亞米利加の領土とならない中のことです)王様が是は一つ何處までも南洋人で經營しよう、この土人と血族上同じやうな人種で此糖業のことをやらせようといふので可なり是は苦心したらしいのであります。或は特に研究會を設けましたり或は南洋に飛んで居ります諸島に態々人を馳せて使用人を集めたりしまして、其附近の土族を呼んだのであります。ところが餘り思はしく行かなかつたのであつて、千八百五十九年に二十人やつと得た。十年も経てから、それから千八百六十八年に、百二十六人得たといふ譯で一向多數に之を得ることが出来ませぬでした。是ではいかぬといふので千八百七十八年になりましてから非常な努力で之に掛りまして、六年間に二千人南洋人を入れたのであります。此中には聞く所に據れば人食人種も居つたといふことであります。餘程窮したことを見えます。其等の人種を驅り集めて甘蔗刈をやらせたのですが、どうもいかなない當時之を企てた人の考では熱帯の土地で働くのだから熱帯に生れた人を使へば氣候に合ふから容易に働くだらうと思つたのですが、實は天性懶惰に出來て居るのでから働かない。何處に行つても働かないので一向成績が擧らない。カメハメハ王は失望してよほど困つたやうであります。其間に日本人を入れることになりました。日本人は最初四十八人這入りました。これが千八百六十八年丁度明治元年でありますから可なり古いことであります。此時の契約を見ますと三年契約で一箇月四弗、尤も衣食住は會社持でありますが四弗といふ廉

いことで這入つたのであります。ところが後に日本政府と砂糖會社及びホノル、の政府との間の經緯が面倒になりました。この儲込は續かなかつたのであります。しかし折合がついて、千八百八十四年に改めて千人這入ることになりました。此千八百八十四年に千人這入つたといふことが今日の基礎を成して居るのであります。此後また移民局とも可なり面倒がありました。是が基礎になりました。爾來多くの日本人が入り込んで、かの最近のストライキまでは非常に喜ばれて來たのであります。今でもこの諸島中何處へ參りましても日本人が一番成績が宜い、能率が高い、さうして彼等は賭博をせぬといふことは申しであります。朝鮮人などは、是も随分使つたことがあり、今も少しは使つてゐるが悪い事をして仕様がなないと、大抵の人は云つてをります。糖業會社に參りました時、朝鮮人は貯蓄心も十分なし干癖が悪くて困る、それに喧嘩をしたり色々なことがあつて洵に治めにくい、まことに困るといふことを聞いたことがあります。是は聽いたことであります。が何處へ行つても餘程朝鮮人には愛想をつかして居るやうであります。が之に反して日本人は非常に能く働く、なか／＼貯金して居る。銀行の人に聽きました所では、今あの群島内で貯金の高を調べると、亞木利加人が一番餘計貯金をして居る、次は葡萄牙人で第三位が日本人だといふことであります。即ち東洋人としては日本人が餘程貯金をするものらしい銀行家の話であります。さういふ風で餘程能く忠實に職業を勵むといふことで愛せられて居ります。

葡萄牙人は千八百八十年から這入り出したので、日本人が這入りしました最初の千八百六十八年に較べ

ますと餘程後でありますけれども、是はどういふものでありますか、契約を見ますと、遙かに宜い契約で這入つて來て居ります。餘程多數にも這入つて參りましたが、男は一箇月十弗、女は一箇月六弗、日本人や支那人に比べて高い率で這入つて居ります。今日の貨銀のことに就ては去年から以來問題がやかましくなりましたでどういふ風になりましたか存じませぬが、元はさういふ有様でありました、葡萄牙人も其成績はよいといふことでありますが、日本人には及ばないさうであります。ところが併し此處に結構なやうでもあり又向ふの人から見まして五月蠅くも感ぜらる理由が日本人及び葡萄牙人にあります。それは何かと申しますと、此等の人々は元々甘蔗を刈らせるために渡來せしめてるのでありますけれども、較々貯金が出来たり其間に少し知識が殖れて來ると町へ出て商店の使用人に住み込んだり段々他の職業に移つたり中には勉強をして終には高い俸給を取る者になつたりするものが随分ある。日本人及び葡萄牙人はなか／＼アンビシアスだ、なか／＼高い欲望を有つて居るから人種としては結構な人種だけれども終にはどんな風に行くのか、なか／＼畏るべきものがあるといふのであります。是は譽められて居るのか貶されて居るのか分りませぬ。葡萄牙人と日本人とは等しく斯かる問題に上る者であります。そこには感情の働きもありまして、葡萄牙人種上白人の中に這入る葡萄牙人は白人圏外にある日本人より、どこか親しまれると見えて、問題となると矢張り日本人の方に強く向いて來るやうです。これは頗る迷惑なことであると思ひます。

斯の如くして日本人が可なり勢力を得て居るのでありますが、今日起つて居る一つの大問題があります。それは何かと申しますと、日本人の教育に就てでありまして、向ふで生れた子供は當然亞米利加公民となる、亞米利加公民であるから學齡に達すれば當然亞米利加の制度による學校に這入らなければならぬ、ところが其等の子は亞米利加の制度の學校に這入るのが當然であつて這入るのが宜いのでありますが、親の方から見ますと洵に是が妙に感ぜられて、亞米利加制度の學校に行つて居ると全く英語のみを教はるから家へ歸つて來ても親父の手紙を代筆することが出來ない、(多數は勞働者でありますから其子供にたのんで時々故郷本國に送る手紙の代筆やら其他此類の文筆のことをやらせたいのであります)のみならず自分達が日本で育つて日本精神を有つて居るから、子も亦日本精神に依て育つて欲しい、それに精神はアメリカ精神になり、著しくデモクチックになる、甚だ困るといふのであります。それは或る親のいふことでありますから、凡て日本人がさう思つてゐるかどうか當てにはなりません。はやくかしこに渡つていつた人々の間にはさ様に考へてゐるものが、たしかにあるに相違ありません。或家に參りました所が、「どうも家の子供は非常にいふことを聽かないので困ります。此頃は時勢が變りましたから日本の内地に於ても矢張り子供は親のいふことを聽かぬのですか」といふ問を私は受けました。是は子供に依ることもあり、親に依る即ち家庭に依ることもありありますから簡短に答へられませぬが、何故に左様な問が出されるかと尋ねました所が、「日本人でありながら日本人の精神が這入らぬ處があるか

ら、それを心配するのである」と、斯う申して居りました。是が今の親達に大きな心配になつて居るやうであります。前からこの事は皆の間に考へられてゐましたから、この所望を満すために、日本の有志者が日本語學校といふものを造りまして、日本語を教へ日本の精神を入れるやうな教科書を用ゐたのであります。ところが此教科書は所謂日本精神を教へるのが目的でありますから、亞米利加流のデモクラシーから見ると餘程距離のあるものと見えるのであります。それで亞米利加の方から此教科書を檢閲した揚句之を改めろといふことになつて、曾ては一度改めたのでありますが、アメリカの方から見て、まだ充分に承知が出来ませぬ。日本語學校を外國語學校と稱せしめて、アメリカ、アメリカといふ念を強める様に、政府當局はつとめて來ましたが、いろ／＼の点で、なか／＼全くアメリカ流にいかぬところがあるのであります。到頭此頃では前外國語學校の存立に就て嚴しい問題が起りまして、是は止めてしまふが宜からうといふことになつて及びまして、日本人中には餘程之に氣を揉んで居る人があります。現在の勢ひで見ますと——亞米利加の文部當局者にも會ひまして其人等の意見を聽きますと——どうしても將來はこの外國語學校は廢せられるであります。さうなれば我國語の教育は甚だむづかしくなります。家庭に於て親が教へれば格別、學校に於て教へられることは、よほど特別な組織にしなければ出來ないことになりませう、私我國語に重きを置いて居る人間は頗る之を残念に思ひますが、亞米利加國內の教育アメリカ人の教育でありますから何ともいふことは出來ませぬ。之には何とかして幼年に限らず青年に

も日本語を教へる道を講じて行かなければならぬといふ感じを深くして参りました。

それから能く申しますのは結婚問題でありまして、どうも日本の人は他民族の人と結婚しない、幾多の民族が彼處に居るけれども、どうも他人種と結婚しないのは日本人だけだ、といふので、餘程目立つたことゝせられて居るのであります。これに就て一寸或人の調べて置いたものを見ましたが面白いことになつて居ります。婦人の方からの問題にして申しますと、婦人でどんな人種の男にでもさつさど快く行くのは第一が土人の女、その次が西班牙婦人であつて、西班牙の女は随分容易に變つた人種にも嫁ぐらしいのです。尤も東洋人に行くのではありませぬ。その次には葡萄牙婦人が容易に他人種の男に嫁する其他支那人の女は他國の男に嫁ぐことは餘りないが、混血した者とは可なり結婚する、朝鮮の女は絶對に他國人と結婚しない、日本人も蓋し其類である。斯ういふ風に計算されて居ります。して見ますと、東洋の婦人といふことから見まして、先づこの群島土人の女が一番暢氣なものでその次が支那婦人となりまして、朝鮮婦人及び日本婦人は恐らく他人種の男に嫁することを否む形に見えて居ります。是は女子の方であります。男子の方は女子とは何時でも問題が違ひまして、可なり他人種を排斥するといつても百人に一人や二人は他人種と結婚する者が昔からあるのでありますから、男子に於ては今申したやうな女子の場合のやうではありませぬ。それでも矢張り日本人は他人種を娶ることは明かに少い方でありま

す。土人を娶つて居るのもあるけれども、其他のを娶つて居るのではないといふことを或人はいつて居り

ます。之に比べますと支那の男はなか／＼盛んに他人種と結婚するのでありまして、殊に支那人と他人種との混血を嫁とすることがなか／＼行はれるやうであります。斯ういふ譯で男の方には多少の自由があるやうであります。矢張り日本人は他人種と結婚することが少い著しい者に見られて居ります。隨て何のかんのといふ批評は出て居りますけれども、實は亞米利加人が矢張りさうなので、亞米利加の女は大抵は亞米利加の男に嫁するので、男の方は可なり自由で居りますけれども、女は亞米利加人に嫁し其次は英國人に嫁するといふ傾に見て居ります。でありますから向ふの人でも婦人は矢張り同國人に嫁するといふ傾を有つて居るものであるといふことは明かであります。必ずしも日本人のみがかやうなことで他民族排斥の考を強く有してゐると非難を受けるべきではないと思ひます。けれども斯様に並べた上では、日本人は著しいものとしなければならぬと思ひます。ところで土人の婦人が何故に最も自由な色々の人種に嫁するかといふことを私自身に考へて見ました。

土人の婦人は概して教育は高くありませんけれども日本人から見ますと体格が宜しい。日本人の女生徒——女學校の女生徒——が寄りました所で見ましたが、それ等の女生徒は目立て小さいのに、土人の女は骨太に見えまして脊も高くあつて丈夫に見えます。専門家が見ましたならばどうか分りませぬが、素人が見たところでは如何にも丈夫に見えます。それから土人の女に西洋人が能く東洋的殊に日本人の特徴とします目の釣つた者は一人も居りませぬ。御承知の通り西洋で拵へる繪葉書等の畫で日本人の特色を

現はさうとするものは必ずその目尻がつり上つて居る形にします。そして此頬骨が高くなつて唇が厚くなつて居る、ところを描きます。こゝに日本人たることを示す要領をおいて居るのであります。ところが土人の女には目の釣つたのはありませぬ。唇の厚いのはなく、あります。色の黒いのもあたり前ですが、私の見た限りでは、一体一重目縁は絶對にありませぬ。目は大きく立派な方であるといつてよいと思ひます。眼なごしの弱い目でありますけれども形はさやうであります。そこで歐米の人が見ましても色は黒いけれどもそんなに東洋的のやうな氣分がしないのだらうと思ひます。それから土人自身の方から申しましても、こゝに來る他人種の多くは何としても皆自分よりは文化が上のものであります。尤も曾て同じ他のポリネシア人種を輸入しましたけれども、是等は食肉人種も混つて居つたといふ甚だしいもので逆も相手にならぬものでありますから、敢て慕ひもしなかつたでせう。其他のものは土人固有の文化に比べれば何としても以上のものを有してゐる民族であります。己れ以上の文化の所有者に嫁ぐことは幸福と思ふことは當然と思ひますから、其方面から他人種の男に容易にゆくものと思ひます。是等は日本人が外國人に對して自ら誇るどころがあるのと大きに違ふこと、見なければなりません。而して悲いかな土人等は斯の如く考へてゐるが爲に、自ら劣等人種としてゐるところがあつて、勢を失ふのであらうと思ひます。

純土人の人口の年々減ることには就いては、右のここの外に男子の方の状態を見る必要があります。

男子は見ますとそれは逞しい身体をしてをります。投網を打つ繪を見ましたが——網の造り方は日本のと同じであります——網を半分肩に掛けまして日本人の仕方と少しも違はぬ姿であります。鉛を打つやうなことも日本人同様にするやうであります。それから四手網などはまるで同じことで些とも違はない。それをやつて居る姿は裸体であるので身体がよくわかります。——日本式の種を附けて居ります。——いかに体格が良く充分働ける男子であります。しかるにどういふものか純土人の人口は減つて居ります。此に現れて居りますところによると、土人としての人口は二萬一千九百であります。其前の人口から比べますと是で減つて居るのであります。又、死亡率が多いのであります。此の死亡率の多いといふことに就ては政府も可なり調べて居るやうであります。實際の所今まで其理由が分つてゐませぬ。蓋し一般的な理由でありませう。凡そ優劣相混する場合に、劣者の民族が減るその一般理由によるのでありませう。しかし是はたゞして見る氣になりましたから、外の島から來て居りました人に其理由を聞きましたらそれは全く醫藥といふものを用ゐないからころ／＼死ぬのだらうといつてゐました。文化の聞けない人には呪禁のやうな御祈禱のやうなことが行はれるのは免れぬことで、さういふやうな療法で行くから病が多くなつてどん／＼死ぬのではないかといふことで、蓋し幼年の中になか／＼死ぬものが多いのでありませう。其の固有療法の一つを聞きましたが、風を引いて熱が出たりすると必ず川の中に飛込むのださうであります。川の中に這入つて首まで水に浸つて詰り冷すのであります。長い間それ

をやつて居るさうであります。それを幾日もやると治るのがあるさうであります。治ることがあるので總て治るといふことになつて居るのでありませうが、若しそんなやうな療治が大きに行はれて居るとしますと、可なり危険なことゝ思ひます。尤も西洋にも窒扶斯患者を水の中に抛り込むのがあると聞いてゐますけれども、沼などに這入り込むのは危険であらうと思ひます。要するに醫藥を巧く用ゐる途が開けて居らぬのでさうなるのであらうと斯ういふことであります。

實は船に乗つて他の島に參りました時に、その船室と船側の手摺との間の廣さが通常なら二人は樂に並んで通れる位であるのに、此幅だけ一杯になつた女に出逢ひました。一人で二人前の幅をもつてゐる大きな女なのであります。さうして、かういふのは珍らしくはないのださうです、大きな腹の男も隨分澤山居りますが、どうも女の大きなのは甚だ目立ちました。それでゐて土人の健康は確かでなく、死亡率が多いといふのでありますから、なるほど醫藥をよく用ゐない爲かと思ひました。或る時、序に何故に斯んなに太い人が多いのかと尋ねたことがあります。尤も西洋などでも中年以上の女は段々肥るといふことは明かに見えるのであります。さうでなくすつと若い婦人が非常に肥つて居るので、こんなことを問ひました。ところが、それは食物に本があると云ひました。彼處にはタローといふ丁度日本の芋のやうなものがあります。葉を見ますと日本の芋の葉と同じ形であります。莖も日本の芋のと同じであります。其のタローの根即ち芋の所を石の上に載せて極昔からあり來りの方法で、石でこしんく碎き磨い

て、ごろ／＼にするのであります。ごろ／＼になつたのを一寸醗酵させて出来上つたものは薄葡萄酒色の丁度漬薯汁の堅い様なものであります。或る席で私は喰べて見ろといはれましたけれども、ごうも臭味があつて、私にはいけませんでした。これはポイといひまして、これを好んで喰べるから土人等は肥るのだといふことであります。このポイで皆肥つて居るのだとすると骨から大きくなつたのでなくて、ぶく／＼に肥つて居るのだらうと思ひます。故に外面から見るとに丈夫でない上に、攝生上に不用意もあり、醫藥の使用に智識がなかつたりして死亡率が多いといふ結果になつて居るのではないかと思ひます。此の土人は自らカナカといつて居ります。日本人などもこの土人をカナカといつて居ります。カナカとは土語で人間といふことであります。丁度アイヌ人がアイヌといつて矢張り人間といふ語で稱してゐるのと同じことであります。かのエスキモーとは佛蘭西人が附けたものであります。エスキモー人自らはインヌイトといつてゐます。人類學の書にもインヌイトとしてあります。このインヌイトがやはり人といふことで、それが一方人種名になつて居るのであります。インヌイト、アイヌ、カナカ皆人種名とせられますところを見ますと、多くの人種名の中には單に人といふ名があるわけで、この外にも例がありますから、是は決して珍しいことでありませぬ。阿弗利加にも緬甸の北の方の土族の中にも矢張り人の義の名前の附いて居るものがあることを覺てをります。蓋し人といふことを、その土族の名とした起りは始めて外國人がこれに遇つて、あれは何かといつて尋ねたとき人だ、カナカだといはれると、その

カナカを種族の名だと心得てしまつて、さう呼び附けてしまふからであります。

カナカ人は前申しました通り、年々減少して参ります。爰に一つ面白いことは亞米利加人が如何に此カナカ人を使つて居るかといふことであります。土人は無論農業にも従事して居りますし、それから商店にもその女などを見ることがあります。幾多の職業の中にも這入つて居りますけれども、尤も目立つのは樂人、音樂者であります。全島中樂人は男でも女でもカナカ人であります。さうして凡そ宴會がありますと男或は女のカナカ人が参つて其傍で音樂を奏します、歌も歌ひます。皆中々上手であります。尤も土俗の歌も歌ひ、歐羅巴流の樂をも奏します。今では聲の使ひ方などはヨーロッパ流であります。これを亞米利加人が非常に譽めてゐます。此人種は音樂の天才である、樂器を持たせたら巧いものだと稱讃をします。それで彼等は大喜びで之を力めて居ます。こゝに於て私は土人の心を考へて見ました。餘り穿ちすぎた考であるかも知れませぬが、かつ思ひました。カナカ人に見ると、男にしても女にしても、大に筋骨を勞するといふほどの仕事をほこりまみれになつてするのでなく、しかも面白くワイ／＼やつて宴席に侍して、たのしく暮せるといふ所を彼等の生命としてゐるのではないか。元來自動車の車掌でも一寸客がおりて、自分が車に休んでゐる時などに、すぐ携帯の小さな樂器をかゝへて、ピンピンやるといふは、之を樂みにしたがる土人ですから、苦しい殖産工業に従事して疲勞するといふやうなことでなく暢氣で且つ自分の興味に従つて、しかも生活の手段にもなるといふところを喜んでゐるのであらうと

思ひます。而して多くの知識を發達せしめる方に力を用ゐずにあるのであらうと思ひます。以前日本の學校制度を始めて決めて呉れましたスコットと申す老人が今ホノルに歸つて居りますが、此の人にいはせると、カナカ人と雖も教育さへすれば立派な人間になるものである、決して歐羅巴人に負けるものではない、一休人種の區別を教育の可能如何で立てることは全然間違ひである。自分が今までやつた教育の結果に依て見ると、どうも幼年兒童では、東洋人の兒童の方が西洋人の兒童より根氣が宜い。これを見れば西洋人は根氣が宜くて東洋人は根氣が宜くないと一概にはいはれない、東洋人もこの土人もなかなか能く物も覺える、其の覺わるのにも至つて忠實に覺わる、ところが白人の子供は中々横着でいかない、だから決して東洋人を劣つた者と見ることは宜くない。畢竟西洋人が伶俐のやうに見わるのは周圍が進んで居るからだ、周圍が進んで居るから兒童と雖も其等から見聞する所が自ら進んで居るので、東洋人と雖も周圍の事物が進んだところにおいて、是に伴ふやうに扱つてやれば同等の知識發達が出來ていくのであると申して居りますが、其筆法から申しますればカナカ人と雖もごんごん進み得るものに相違ないのであります。現にカナカ人の行つて居る中學もあります、又カナカ人で大學に行つて居る者もあるのであります。けれどもそれは少數でありまして、立派な青年男女が音樂者になつて居ります。此多く音樂者になつて居る氣分は全く好い樂みのある生活であるとして浮々して居るのではないかと思ひます。熱帯人には樂な生活といふことにどうしても傾く氣分があるのであります、それが一つになる

のではないかと思ひます。

カナカ人の言葉は私の特に注意したいことでありますから、それを聞いて参りました。これはポリネシア族の言葉であります。馬來の言葉とは餘程違ひまして、數の名上だけでも餘程違ひます、似たものはありますが、大分違ひます。尤も皆様に申上げて面白く思召すと思ふことは、例へば日本語には數多くの子音がありますが、不思議なことにはカナカ語の語音中には子音は實に驚く程乏しいのであります

㉖ ① dz r

㉗ ㉘ ch h

g d z th

㉙ k t s sh

此後に申す一種の子音を除いては、この圖の上で圓を付けましたゞけしか子音がありません。一体此類のことはポリネシア語の特色であります、これはまた餘程珍しいことであります。馬來語でも斯んなことはありませぬ。日本語において、申しますと、カキクケコ、ナニヌネノ、マミムメモ、ハヒフヘホ、ワヰウエヲ、ラリルレロより子音がないのであります。母音はアイウエオの五つがあります。斯ういふ非常に少い子音で色々の言葉が出来て居るのですから餘程妙です。聽いて居りますと大變母音が能く響いて宜く聞えますが、一つ耳に當る音が特にあります。それを吾々が専門用としては、斯ういふ標で表

はします。是はたとへばおとなしくアといはずに、咽喉を一度閉めてそれからそれを破りフ、アといふ様にするその時に聞ゆる頭音であります。實は一種の立派な子音があります。而してこれがあるのとないのと同じ様でも意味が大きにちがふのでありますから、これはカナカの言葉としては重要な音であります。是は獨逸語にも日本語にもあるにはありますが、斯んなに重要になつて居るのは今度始めて聴きました。斯ういふ子音があるのであります。

さういふ組合せで言葉を造つて居ります。全体が餘程日本語とは組立が變つて居りますが、一寸響きは似たやうな所があります。爰に皆様として興味を起されるところと思ひますことは、外國語——殊に此處は英語が流行つて居るのですが——英語がカナカ人の言葉になる時にどんなものになるかといふことであります。丁度日本で例を申しますとインクがインキとなりハンカチーフがハンケチとなるといふやうな工合に變りますが、日本語中では英語が變りますが、カナカでは又カナカ流があつて、其變り方が面白いのであります。是は私が自分勝手に面白いので、皆様にはさうでないかもしれませぬのが、例を申せば、葡萄は此土地では産しませぬが、葡萄のことをワイナといひます。是は英語のワインを變へたのであります。オレンジはアラニとなつてゐます。ジといふ音がありませぬからジを除けてしまつて、あとへ、日本のインキみたやうにイを附けたのであります。無花果は英語ではフィグといひますが、エフといふ音がカナカに無いから *pika* といひます。前掛のエブロンをエバネとします。日本でエブロンが

アブラヤサンとして居るのは變音として、ちとひどい變りやうであります。ペンのことをペニ、書物のブックのことをブケといひます。ブといふ音がありませぬからブにしたのです。尤も Britain といふやうな固有名は *Perchania* となつて居ります。これはりが必ずしも云へないのでないといふ証據になります。即ち外國語音の普通なものを出せないわけではないが、國語に用ゐないから、外國語音をかへ易いといふのであります。インクがイニカで日本ではインキとなつて居ります。それから T が土語に無いから、タオルのことをカオルといふのです。k と t が變つてしまふのです。是は外國語研究の參考になることとであります。K と T と變るといふことは私には甚だ面白く感ぜられました。もう一つ不思議なことは S の音が土語にありませぬから、それも k にして、Soup のことを *Kupa* といひます。此流儀で行きますから石鹼のことをコバといひます。即ちソーブの變形であります。シルクをキリカといひ、カトリックがカコリックといつて、何れも k にかへてゐます。それから餘程ひどく變つたのがアンブレラがアンマール、キャブテンをカペナーであります。斯ういふやうに T の無い所を K で補ひ、S が無いから K に代へ、b が無いからこれを p とし、g が無いから k ですますといふやうなことで英語の音を大きに變へて用ゐて居ります。この類は可なり澤山あります。數の觀念も百以上は無かつたのでありまして、百以上は英語の訛りを用ゐてゐます。英語として使ひます時には英語の通り云ひますが、カナカ人としてカナカ語を使ふ時にはえらい變化を起して居ります。

次にカナカ言葉でも、阿弗利加の土蠻の語にしても南洋の食肉人種にしても、是等文化の低い所の民族によくある特質を具へて居ります。それは何であるかといひますと、動物、生きて居るものと生きて居ない物とに就ての色々の言葉の使ひ分けをしてゐることでありませぬ。それは動詞を其處へ配しますにしても形容詞を配しますにも生きて居るものと生きて居ないものと大分取扱が違ふのであります。是は文化の低い所に於ては屢々見當りますが、カナカ語に於ても見當ります。是は私は面白いと思ひます。尙ほ此方は材料を持つて參りましたが自分は今將來言語上からよく調べて見たいと思つてをります。固より此土人には文字は何も無かつたのであります。歐羅巴語が這入りましてから羅馬字を覺えた位の程度の低いものであります。

風俗の方は今は全然洋服になつてしまつて居ります。土族の古服を着けることがあるにはあるのであります。矢張り洋服に羽織る形になつて居ります。土人の古服といふのは鳥の羽で拵へたマントルであります。是は實に精巧なものであります。小さい鳥の細かいおもに黄い羽から作つた黄色のマントルであります。餘程立派なものであります。それを儀式の時にはおるといふことで、是だけが先づ残つて居るものと見なければなりません。樂器等も昔のものが残つて居りますが、是等は西洋のものに驅逐されてしまつて居ります。彼等の住居としては全く土間の藁屋に住まつて居たのであります。此の頃は床の上に住むやうに段々進歩して參りました。是等は悉く亞米利加の影響であるといふ外はないのであり

ます。

それから最後にもう一つ申して置きます。是は加藤さんなどに無論研究して戴かなければならぬこと
であります。この土人の神話に就いてであります。是は私が智識ある土人即ち今のハワイイ大學で
ハワイイ語を教へて居る唯一の土人ブロンフェツソルから直接に聞いたことで、此人に會ひまして面白い
話があつたら聽かせて呉れたいひましたら、非常に面白く話がある。全体私のこの國ではこの世界が此
處から始まつたといふことを信じて居ります。全然舊約聖書にあると同じやうなことをいふ。初め渾沌
たる所があつて其處へ光が出て來て、其光の中にある主があつて其主が星を造つたり何かして其中に自
分に肖たものを自分に形取つて造つたのが人間なのだ、それが昔々の祖先なのだ。今は我等はこの小
な島に居るわけであるけれども、此島はよその陸と續きで、實はお前様の國までも續いて居たかも知れ
ぬ。といふ様なこと等をいつてきかせました。尙書物によりますと、曾て大洪水があつたといふ、舊約
にあるのと同じ様なことも傳はつてゐるやうです。神に選ばれたる種族だけが、其中で救はれて遺つた
といふ様なことや、澤山の兄弟があつた其中で一人はその他の兄弟に虐待せられて他國に行つて他國の
王に可愛がられて故國に歸つて偉い者になつたといふやうなことや、全然舊物の譚と同じ様なものが傳
はつてゐるさうであります。是は基督教が渡る以前からさういふ話があつたが、基督教渡來後に始つたか
といふことは餘程研究して見なければなりません。土人も基督教渡來以前から知れてゐるとし、之を

調べて居る、西洋人も二三口を揃へて基督教傳來以前に此話があつたらしいとしてゐます。そこでその結論としても斯ういふ話を有つて居る人種が彼スカ何處かに居つて或者はあちらに行き、或者はこちらに來て一部分この土人の間にも残つたことで、此話は故郷から續いて居るものであるといふ様な説もいはれてをり、ニューヘブリデーズ等の言語はセム語であるといふことを斷言して居る學者もありますがそれも果してさうかどうかは分りませぬ。餘程研究を積んだ結果でなければ分りませぬ。ニューヘブリデーズの土蠻は今大きに違つた言葉を使つて居るやうであるけれども、舊約と關係あるセム人が渡つて來て遺しておいたものゝつゞきあひであつて、南洋人々々と貶して居るけれども彼等の語る言葉は聖書の古い所の言葉と同じ言葉であるのだといふこの説などはまだく容易に従ふことは出来ませぬ。一問題としてのこしておかねばなりませぬ。ともかくカナカ人の間の神話を聽いて、こんな説を思ひ合せましたは是は南洋に大分妙な雲が湧いて居ると感じたのであります。吾々の國とは直接關係の無いことでありますけれども、島々の土人は他國から渡つたといふことはどうしても推想されるのでありますから、然らば如何なる途に依て渡りどんな所から別れて來たかといふことは將來の研究に大に俟たなければならぬと思ひます。何れ此事は能く尙ほ參考書を読みましてから加藤さんなどに御相談したいと思ふのであります。

總てが前申しました通りハワイイの土俗に就て能く調べてゐないことを敢て申しましたので甚だ御聽

ハワイの土俗に就きて（藤岡）

六二

苦しいことでありましたこと、思ひます。是で私の今夕の責任を解除して戴きます。

熊澤蕃山

釋迦は吉利支丹の邪術を習て

神通力とす（三輪物語第十四卷）